

を引率して行つた時、そこから何物を學ぶべきかといふことを列挙したものである。參考すべき文獻を擧げてあつて、冗長な説明はしてない。そこに著者の主張がある、地理は實地の學問であつて、見なければならぬ。机上で聞くだけでは駄目であるといふのである。正しい地圖と手頃なスケツチ。帝都近郊に行けない遠隔の人々も指導上の參考にはなるであらうと信ずる。(F)

○世界現勢地圖、世界地勢地圖、世界産業交通地圖

著 軸製一本 拾圓 一組三十圓 大さ五尺に三尺五寸

手頃な世界地圖の壁掛けとして、學校の應接室にでもかけると共に半ば家庭で子供の書齋にもかけられるやうな世界全圖がほしいと思つてゐた矢先に、木崎氏はランヘルト等積楕圓投影法によつて、日本を中心にした世界を書き、銅版の手数を省き、たゞちに寫眞石版オフセツト十四色刷乃至十六色刷で政治、地勢、産業といつた三大世界地圖の一組をつくりいかにも安價な多量の供給をやることにした。この圖は日本が中心だから、歐洲や北米が延びて見えるので前に、橢圓の下の空地に、ボンヌ圖法による歐洲、北米、東亞の三國を記して、その正しい形を理解せしむることにしてある。資料は一々その據る所を明にしたものであつて信用するに足りる。何はともあれ我國でまづかうした最初の世界圖が出来たこと

を喜びたい。何時迄も外國製の地圖そのまゝを引きうつしにする時代ではないからである。

中學校や小學校で教授用にするには或は小さいかもしれぬが、しかし運動場とか、圖書室とか、地理教室などの壁間にこれなかけて置いて、常に世界に親しませるやうにすれば、その教育上の効果は至大であらう、教官室などにかけて置いても妙である。價格も軸製にして一本十圓であるまづ安價なものである。この中で世界現勢圖位の一軸は世の中の一般の家庭にもこれをすゝめたい。(藤田)

新著即報

○Place-names of Mineral-localities in Central Europe By F. Slavik and L. J. Spencer. *Minerological Magazine*. XXI. No. 121. June

○武蔵野歴史地理 第一冊總論東京北郊 高橋源一郎編 六月

東京市外高田武蔵野歴史地理學會發行 實價二圓五〇

○京都近郊一萬分一地形圖 東北部東南部西北部西南部の四葉 九月 陸地測量部 各葉五〇錢

○朝鮮鐵床論の片鱗 中村新太郎著 九月、東京古今書院 七〇錢

○地學雜誌 第四七五號 九月、阿弗利加觀察院(中目覺)

珍しい西伯利亞の隕石(横山又次郎)白頭山(一)(山成不二磨)蒼鉛鐵と其產地並に蒼鉛鐵から見た日本及支那(一)(被

村癸巳男) 秋吉臺カルスト(石灰岩景觀)(二)(佐藤傳藏)

○地質學雜誌 第四一九號 八月

隱岐島後産アルカリ流紋岩中の斑晶石英のエステレル双晶に就きて(富田達)

信濃木崎湖畔森産曹達花崗斑岩中のハイスティングサイトに就いて(富田達)

○Bulletin of the Geological Society of America. Vol.39.

No.1. March.

Asa and North America—a comparison in Tertiary diastrophism (abst.); (F. B. Taylor)

Review of mountain-making in Asia (abst.);

(C. P. Berkey and F. K. Morris)

Post-Mesozoic history of north China (abst.);

(G. B. Barbour)

New stratigraphic formations in Mongolia (abst.);

(C. P. Berkey, W. Granger, and F. K. Morris)

Sequoia forest of Oligocene age in Manchuria (abst.);

(R. W. Chaney)

Fossil evidence of the existence of a Pacific Ocean in early Ordovician time (abst.); (R. Ruedemann)

Structural symmetry in North America (A. Keith)

○日本鑛業會誌 五二二號(金銀號)九月

本邦の金銀業に就て(桂辨三)

北海道に於ける砂金及砂白金に就て(松本彬)

朝鮮の金銀鑛業に就て(鈴木哲郎)

○地理學評論 第四卷第十號 十月

遼東半島に發達する所謂低位置準平原と其の諸性質に就いて(花井重次)

フ・ベンク「氷期の原因」(辻村太郎)

樺太入移民の經濟地理學的考察(下)(武見芳二)

日本群島の洪積層丘陵地に於ける侵蝕面の形態の三種の型式(範例)(東木龍七)

○鑛業 第五十五號 九月

石炭の液化に就いて(大島義清)

四國に於ける中央線に就いて(森下正信)

○土木地質學 渡邊貫著 九月 東京工業雜誌社發行 定價 二圓五〇

○科學智識 第八卷第十號 十月

人の元祖は果して猩猩か(横山又次郎)

海圖雜誌(其三)(國生行孝)

大阪城の石と小豆島(久保準)

○The Epicenter of the Kansu Earthquake of

May 23, 1927, (W. C. Repett) Bull. Seismol. Soc.

Am. Vol. 18, No. 1. March.

○琵琶湖調査報告第二編琵琶湖及び沿岸の氣象

(八銀利助、小野英雄) 海洋氣象臺彙報 第一五號 八月

○地理教育 第九卷第一號 十月

先石炭系に就いて(早坂一郎)

大阪平野の發達(一)(伏見義夫)

塞風山の火山學的位置(津田秀郎)

國際石油地理論(五)(田上政敏)

○陸の科學(辻村太郎) 小學生全集第六十海の科學、陸の科學 十月 興文社發行

○日本人口分布圖 田中啓爾 山本熊太郎共編 百萬分一 五葉 十月 古今書院 定價五枚揃七五錢

○世界地理風俗大系 第十四卷 イタリヤ・地中海 大類伸、小田内通敏、渡邊萬次郎、吉田彌邦、田中阿歌磨、田中

館秀三、岡伊能、山本信次郎、荒井陸男、佐藤弘執筆、

九月 東京新光社發行 定價二圓八十錢

○帝都近郊地理學習要錄 山本幸雄著 十月 古今書院 定價一圓

○日本農業地圖 十月 帝國農會刊行 豫約價一圓

雜報

○砂漠の成因に關する新研究

獨逸のハンス・モルテンザン(Hans. Morensen)氏は南米智利の砂漠地を核心、中部、縁邊の三區域に分ちて踏査研究の結果、從來の砂漠生成に關する考説を否認し、新説を發表した。其は砂漠地の表面が、厚さ三、四吋の硬き灰黄色の塵埃を以て全然被覆せられ、風の侵蝕の武器と謂ふべき砂礫の存在し無い事實に基くので、(但し縁邊區域には多少あり)、塵埃層の下には厚き白

色鹽塵(Salt dust)(一部硫酸曹達から成る)があり、此塵埃表皮の成因に關しては、同氏も十分なる説明を爲し得ぬが、其場所に於て出來たものと信じて居る、即ち現に出來つつあるのを目撃したからである。多分少くも十年以上洪水が汎濫した事があると推定せらるるといふて居る。兎に角此塵埃の表皮は主として土壤に濕氣を有する時に出來たもので、濕氣は不時の降雨から來り、潮解性鹽塵に十分吸收せられたものが急劇に蒸發せられたに相違無い、同氏の考は是れ迄砂漠生成の因子として考へられた、氣溫・風速・濕度・雲量等を否認し去り、只降雨量の僅微と蒸發の強烈とを以て、砂漠生成の主因と認めむとするのである。(Geographical Jour. No.1. Vol. LXXII. 1923).

○薩南硫黃島、寶島、小寶島の地形

硫黃島、寶島、小寶島等は鹿兒島縣大島郡十島村に屬する。十島村に屬する島嶼は九州の南端と奄美大島との間に非布琉球弧の内側を形成する火山島列である。十島村には住民のある島が十一ある。即ち竹島・硫黃島・黒島・口之島・中之島・諏訪瀬島・惡石島・臥蛇島・平島・小寶島及寶島である。これ等の島嶼は百五十哩の間北東から南西に向つて列んでゐるが北方の三つの島なる竹島・硫黃島・及黒島は東西に一列をなして口三島と稱へられる。この三島の南に口永良部島があるが、之は屋久島に近いので上屋久村に屬する。口之島以下の七島(小寶島は寶島に合す)は土噺(トカラ)七島又は單に七島と呼ばれる、